

## 第5章 緊急時の対応

---

# 第5章 緊急時の対応

## 1 基本的な考え方

食物アレルギーの誘発症状は、軽いじんま疹から気管支ぜん息やアナフィラキシーのように緊急の対応を要するものまで幅広くあります。アレルギーをもつ児童生徒が何らかの体調の変化を訴えた場合は、常にアレルギー症状である可能性を考慮して観察し、迅速な処置のタイミングを逃さないことが大切です。

緊急時に備えて、学校の実情に即した「緊急時対応マニュアル」や「緊急時対応カード」を作成するとともに、教職員の誰が発見者になった場合でも適切な対応がとれるように教職員全員が情報を共有し、速やかに緊急事態に対応できる体制を整えておくことが必要です。

## 2 緊急時対応の流れ

アナフィラキシー症状をきたした児童生徒を発見したときの対応（モデル図）



＜「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（財団法人日本学校保健会）2008年3月 ＞

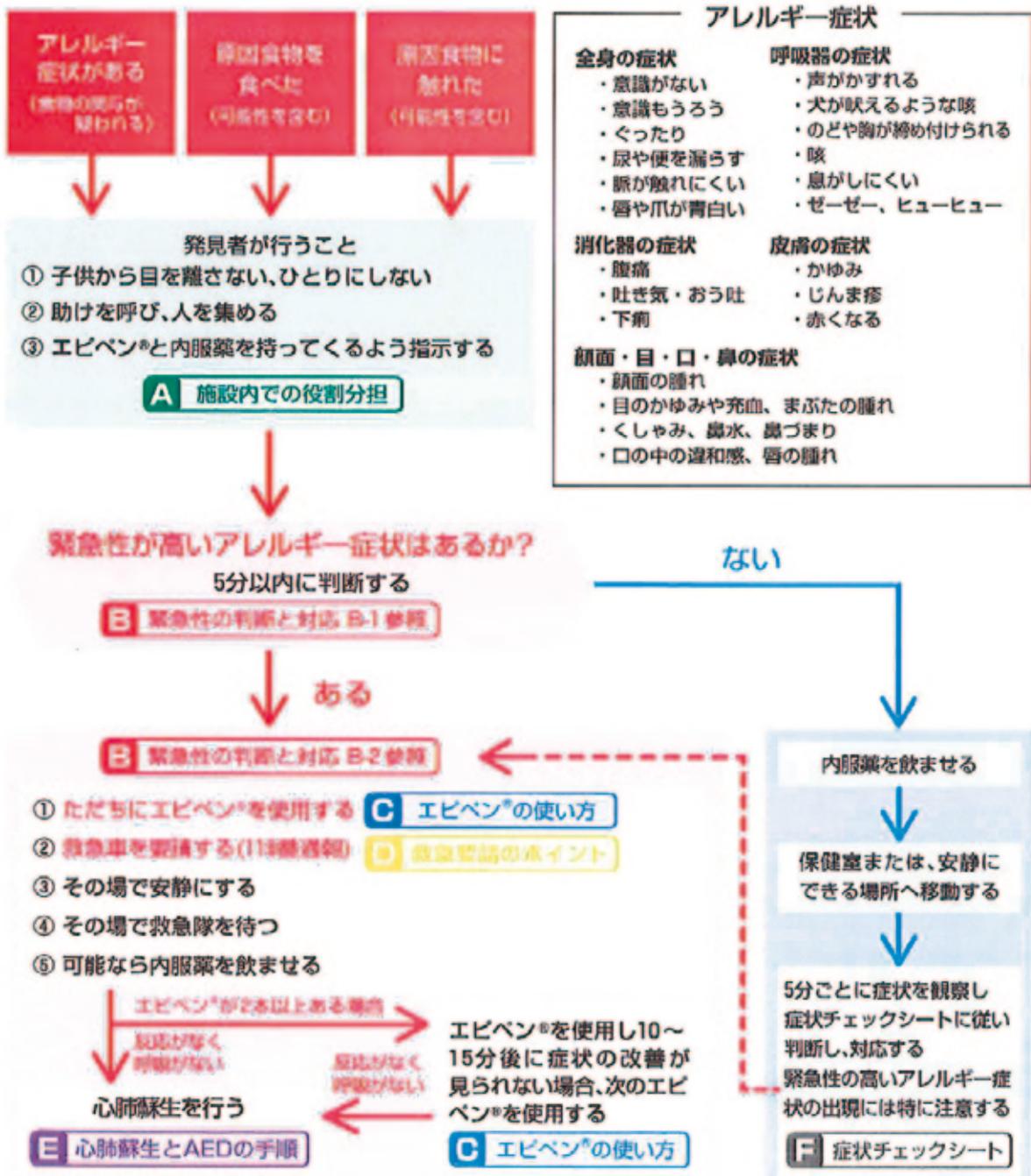
### 3 食物アレルギー緊急時対応マニュアル（エピペン®の使い方を含む）

※ 福島県教育庁健康教育課のホームページに掲載されています。

<http://www.kenkou.fks.ed.jp/kenkou/kenkou%20index.html>

# 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

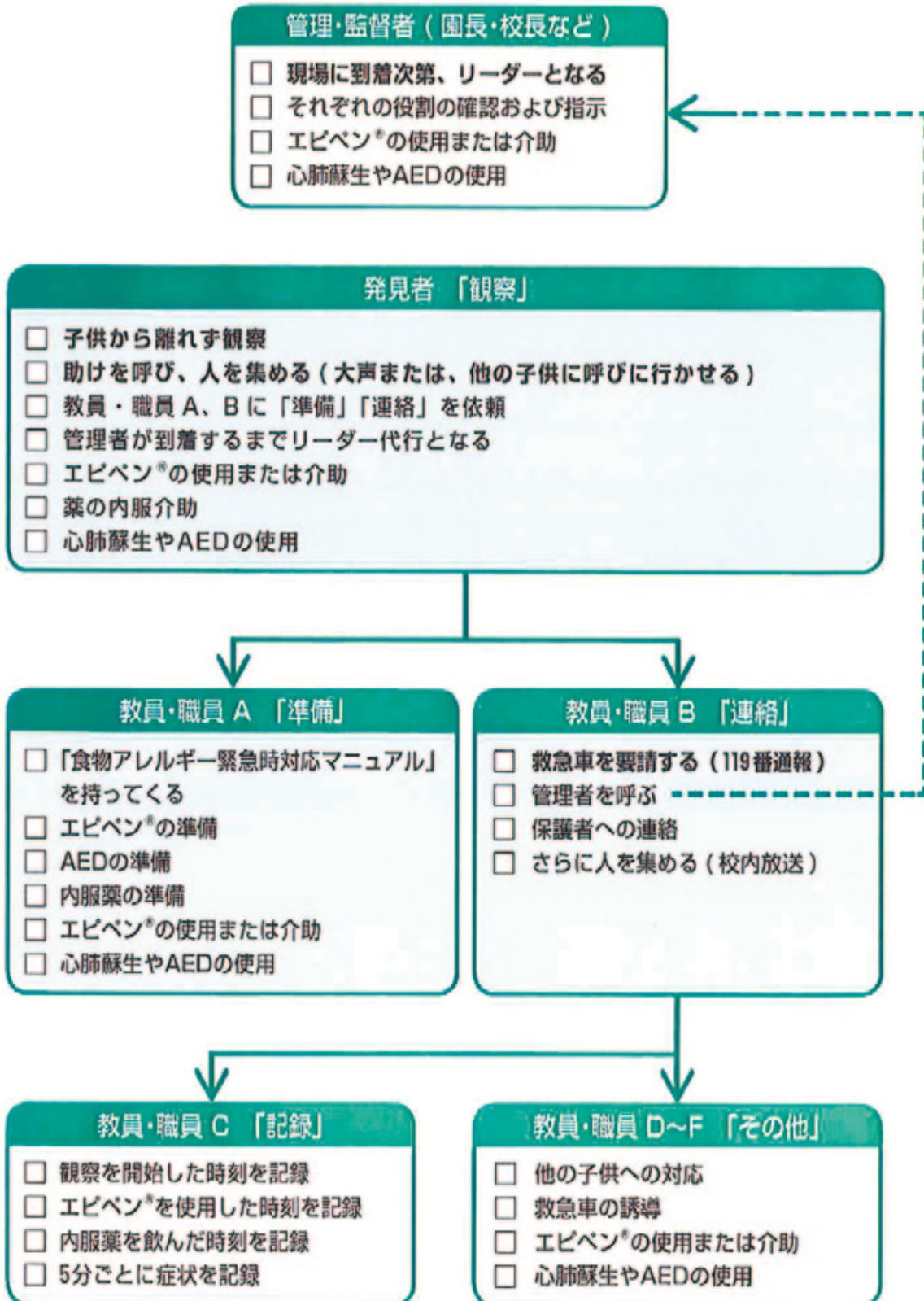
## アレルギー症状への対応の手順



# A

## 施設内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う



＜「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」（東京都）2013年7月＞

# B

## 緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！

◆迷ったらエピペン®を打つ！ ただちに119番通報をする！

### B-1 緊急性が高いアレルギー症状

#### 【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

#### 【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸  
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

#### 【消化器の症状】

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

### B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

① ただちにエピペン®を使用する！

→ **C** エピペン®の使い方

② 救急車を要請する(119番通報)

→ **D** 救急要請のポイント

③ その場で安静にする(下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピペン®を使用し10~15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → **E** 心肺蘇生とAEDの手順

内服薬を飲ませる

保健室または、安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

**F** 症状チェックシート

### 安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

# C

# エピペン®の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

## ① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け  
エピペン®を取り出す

## ② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを  
下に向け、利き手で持つ

**「グー」で握る!**

## ③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

## ④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端  
(オレンジ色の部分)を軽くあて、  
「カチッ」と音がするまで強く押し  
あてそのまま5つ数える

**注射した後すぐに抜かない!  
押しつけたまま5つ数える!**

## ⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン®を太ももから離しオレ  
ンジ色のニードルカバーが伸び  
ているか確認する

**伸びていない場合は「⑥」に戻る!**

## ⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、  
マッサージする

## 介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝を  
しっかり抑え、動かないように固定する

## 注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中 (A) よりやや外側に注射する

### 仰向けの場合



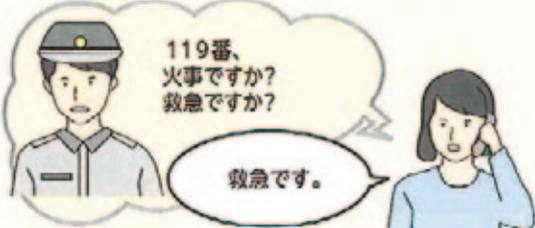
### 座位の場合



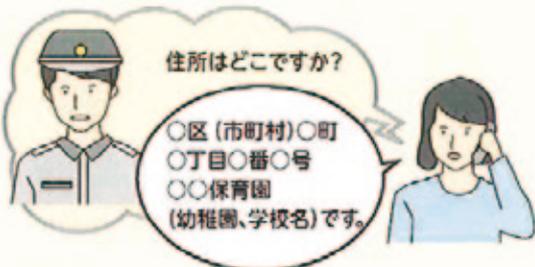
# D

## 救急要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

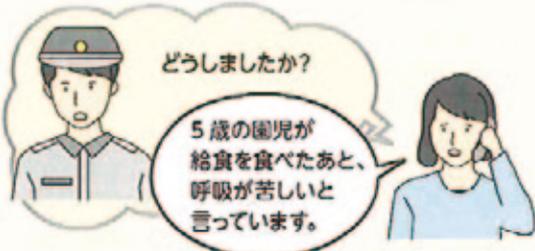


①救急であることを伝える



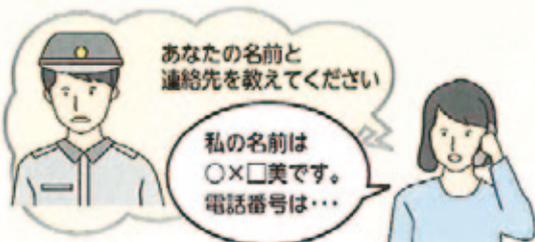
②救急車に来てほしい住所を伝える

住所、施設名をあらかじめ記載しておく



③「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える

エビベン®の処方やエビベン®の使用の有無を伝える



④通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

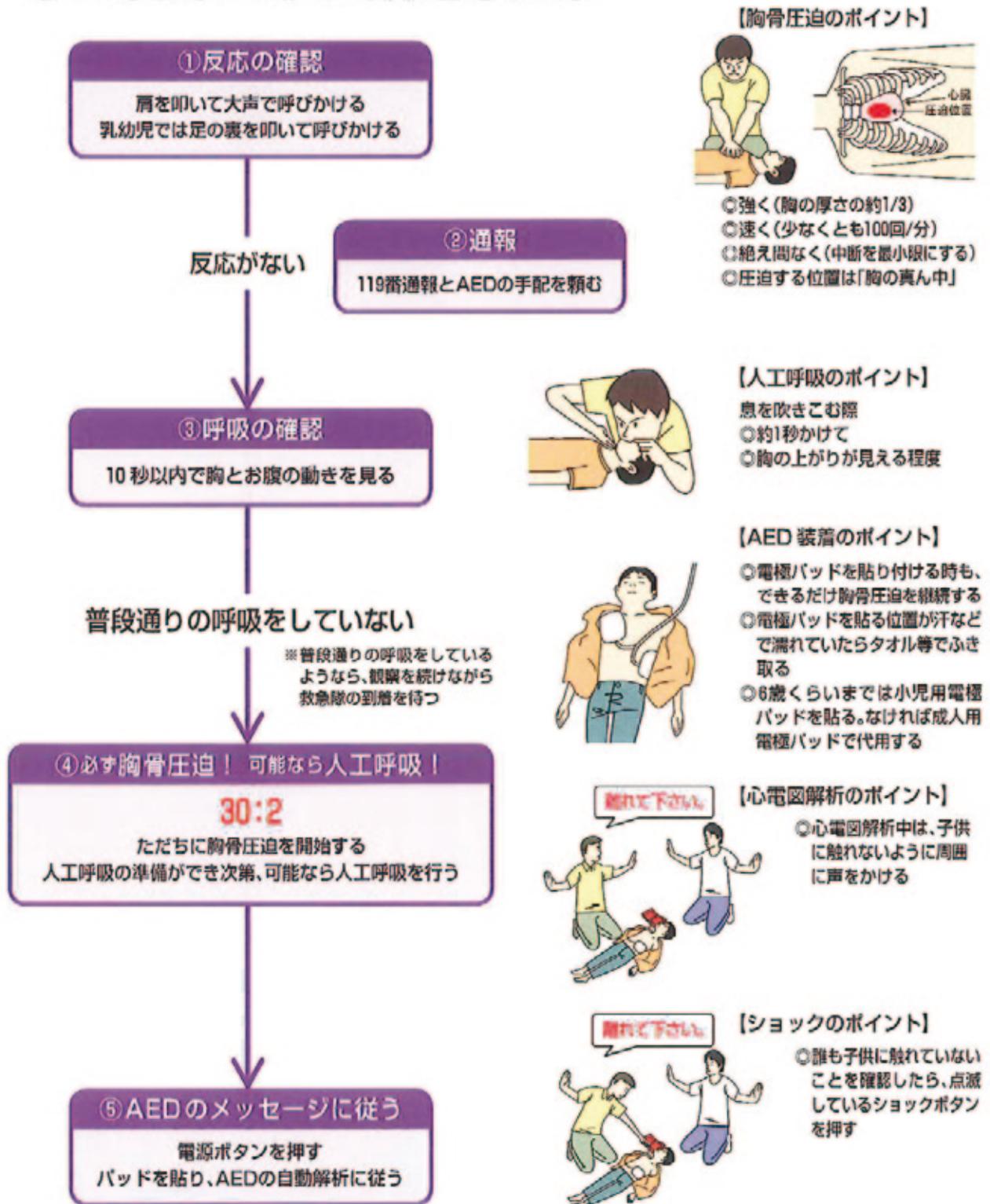
※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

- 通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

＜「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」（東京都）2013年7月＞

◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

◆救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける



# F

# 症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆の症状が1つでもあてはまる場合、エビベン®を使用する

(内服薬を飲んだ後にエビベン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻( \_\_\_ 時 \_\_\_ 分) 内服した時刻( \_\_\_ 時 \_\_\_ 分) エビベン®を使用した時刻( \_\_\_ 時 \_\_\_ 分)

全身の 症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い		
呼吸器 の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器 の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない) お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1~2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1~2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・ 鼻・顔面 の症状	上記の症状が 1つでもあてはまる場合	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の 症状		<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		1つでもあてはまる場合	1つでもあてはまる場合

①ただちにエビベン®を使用する  
②救急車を要請する(119番通報)  
③その場で安静を保つ  
(立たせたり、歩かせたりしない)  
④その場で救急隊を待つ  
⑤可能なら内服薬を飲ませる

**B 緊急性の判断と対応 日2参照**

**ただちに救急車で  
医療機関へ搬送**

①内服薬を飲ませ、エビベン®  
を準備する  
②速やかに医療機関を受診する  
(救急車の要請も考慮)  
③医療機関に到着するまで、  
5分ごとに症状の変化を観  
察し、の症状が1つでも  
あてはまる場合、エビベン®  
を使用する

**速やかに  
医療機関を受診**

①内服薬を飲ませる  
②少なくとも1時間は5分ごと  
に症状の変化を観察し、症状  
の改善がみられない場合は医  
療機関を受診する

**安静にし、  
注意深く経過観察**

#### 4 食物アレルギー緊急時対応カード

緊急時に備え、対象児童生徒についてそれぞれ作成し、定められた場所に保管し、すぐに使用できるようにします。

食物アレルギー緊急時対応カード(例) (表面)				
年 組	名前	生年月日	平成	年 月 日生
住所				
緊急時 連絡先	連絡の順	名前	本人との関係	電話番号
	1			
	2			
	3			
医療機関	医療機関名	医師名	電話番号	
主治医				
緊急時				
アレルギーに ついて	原因食物		アナフィラキシーショックの既往	有 無
	症 状			
	ぜん息(アナフィラキシー重症化の危険因子)	有 ・ 無		
	内服薬等	有(薬: )・ 無	内服薬等保管場所	
	エピペン®	有( mg、有効期限 年 月)・ 無	エピペン®保管場所	
<b>救急車要請(119番)のポイント</b>				
<p>① 「救急です」、「食物アレルギーによるアナフィラキシー患者の搬送依頼です」</p> <p>② ( ) 学校です。住所 ( ) です。</p> <p>③ 患者の名前は「 」です。「 歳」、「 年生」です。 いつ・・・食事開始後 ( ) 分経過、( ) 時 ( ) 分頃から どのような・・・ アナフィラキシー症状、全身のじんましん、意識の有無など</p> <p>④ 「エピペン®」を処方されている児童生徒の場合は、 「エピペン®が処方されています」、「エピペン®を使用しました」 事前に消防署へ連絡を依頼してある児童生徒であれば、その旨を伝える。</p> <p>⑤ 連絡した者の名前 ( )、連絡先 (Tel ) を伝える。</p> <p>⑥ 救急車が到着するまでの応急手当の方法を聞く。</p> <p>* 救急搬送する児童生徒の「アレルギー緊急時対応カード」、使用した「エピペン®」等を持参し、 救急車に同乗する。</p>				

## 食物アレルギー緊急時対応カード(例) (裏面)

1	食べた(摂取した)時間	平成 年 月 日 ( ) 時 分				
2	食べた(摂取した)状況	食べたもの( ) 量( ) 場所( )				
3	処置	原因食物の除去	□口の中のものを取り除く □口をすすぐ □手を洗う □目や顔を洗う			
		緊急時処方薬	内服薬( )	時 分		
			吸入薬( )	時 分		
		エピペン®	「エピペン®」の使用(あり・なし)	ありの場合⇒		時 分
注射した者(本人・他)	他の場合⇒		氏名			
4	救急車	救急車を要請した時刻	時 分	救急車到着時刻	時 分	
5	医療機関	医療機関 連絡時刻	時 分	医療機関到着時刻	時 分	
6	医療機関搬送先					
7	保護者	保護者への連絡時刻	時 分	(内容 )		
8	症 状	軽い症状( 時 分頃から出現)				
		・皮膚	:限られた範囲のかゆみ、じんましん(数個)、部分的に赤い斑点			
		・口	:口のかゆみ、唇が少し腫れている			
		・呼吸	:軽いせき、くしゃみ			
		中等度～重度の症状( 時 分頃から出現)				
		・皮膚	:じんましん(全身に広がる)、強いかゆみ、舌や唇の腫れ			
		・お腹	:腹痛、嘔吐、下痢、お腹と皮膚の症状が同時にある {嘔吐、下痢、腹痛に湿疹(じんましん)が伴う}			
		・呼吸	:のどのイガイガ、のどのかゆみ、繰り返すせき、息苦しい 呼吸時ゼーゼー・ヒューヒューとなる、かすれ声、声が出ない			
・脈・顔色	:脈が速い、脈が不規則、顔色が青白い					
・様子	:不安、恐怖感、ぐったり、うとうと、意識がもうろう					
9	バイタルサイン	脈( 回/分) ・ 呼吸( 荒い・ふつう ) ・ 体温( °C)				
10	その他					

## コ ラ ム

- 安全な給食提供のために、献立表は原因食物が使用されていることが明確な料理名とします。  
例えば、かにと卵のスープ、大豆のかみかみ上げ、えび入りシュウマイなどわかりやすく工夫します。